

6

御調

尾道

銀の道
CYCLING MAP

中世・近世の遺跡を残す、 風光明媚な港町に到る。



銀の道の終わりは、海の道の始まり。

35里(140km)に及ぶ「銀の道」は、尾道で終点を迎える。と同時に、尾道は「しまなみ海道」のスタート地点でもある。銀の道のゴールである出雲大社道起点の碑から尾道港に進み、尾道水道を眺めると左手に見えるのが尾道大橋だ。しかし、狭くて危険なため自転車は渡船を利用するのが一般的とのこと。乗船時間はほんの数分だが、坂の町・尾道の景色を眺めながらの船旅もなかなか新鮮。ここから、また新たな自転車の旅に進んでいくのも一興かもしれない。



路上にて



1市原の辻堂
市原の道沿いに辻堂が建っている。隣には常夜灯が建っており、かつては街道筋であったことを物語っている。



3身代わり地藏
尾道市内各所にこうした辻堂が残っており、四つ堂とも呼ばれている。この堂内には、身代わり地藏が安置されている。



5三成の常夜灯
道沿いに建っている常夜灯。その定元の石には、願事を唱えながら石棒でたたいた痕が残っており、「杯状穴」と呼ばれている。



7長江の道標
街道は県道363号から東よりの通りに入る。ここは豊問屋を唱えながら石棒でたたいた痕が残っており、かたい隅に出雲街道を示す道標が残っている。



9丹花小路(たんがしろうじ)
銀の道はここでJR山陽本線で分断され、線路の南側では丹花小路と呼ばれる狭い道となる。小路沿いには常夜灯も残っている。



11出雲大社道起点の碑
街道に残された出雲大社道の起点を示す碑。尾道から出雲大社を目指す旅人の起点となる場所である。



2市原の常夜灯
1860年に建立された常夜灯。隣に建つ辻堂と共にかつて街道を行く旅人を見守っていたのであろう。



4三成の六地藏
周辺の様々な古石塔、五輪塔を集め祀っている。中世には、この近くに生活の場があり、墓地もあったことが想像される。



6馬小屋跡
かつて、街道沿いには乗換え用の馬が用意されており、その馬小屋と思われる跡がここにあった。現在は駐車場となっている。



8豊問屋
県道363号より東に一本入った通りに、豊問屋街の名残をとどめている建物がある。今はここだけが往時の面影を残している。



10尾道の本陣跡
輸送隊を率いた代官所役人が宿泊した本陣跡には、今でも立派な礎石が残っている。銀はここから船で積み出されたと思われる。



12住吉神社
当時とは社の向きが違うが、今も昔も海の安全を見守っている。銀を積んだ船もここで安全を祈願したことだろう。

凡例	
— 銀の道(サイクリング)※	● 主な施設
P 駐車場・駐車可能場所	♿ トイレ(車いす可)
♿ トイレ	🍽️ レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますので、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を使用した。承認番号五23-444-01(第753号)